

利他学会議

vol.4



2024. 3.2(土) 10:00-12:00 / 13:30-15:30

3.3(日) 10:00-12:00 / 13:30-15:30 / 20:00-21:30

対象：一般、本学教職員、学生
 開催形式：ウェビナーによるオンライン開催（要事前登録）
 定員：2800人（各分科会ごと）
 参加費：無料（要事前申込み）

主催：東京工業大学 科学技術創成研究院 未来の人類研究センター 会場提供：Island and office 株式会社
 お問い合わせ：fhrc@ila.titech.ac.jp URL：www.fhrc.ila.titech.ac.jp

Member

センターメンバーによるコメント

伊藤 亜紗 教授、芸術、センター長

2年前に八丈島での利他研究会に参加させていただいたとき、地元の方が口々に「あの人がこうだった」「この人はこうだ」と身近な人の話をし始め、「利他って結局「員である」ということではないか」という結論に達しました。利他についてはあちこちでお話させていただきましたが、こんなに「話が早い」場所は他になく、びっくりしたことを覚えています。私はまだ「八文学」のほんの入り口しか知りませんが、この土地で利他学会議を開催できる幸せを噛み締めつつ、その自然や歴史をさらに学びたいと思っています。夏の合宿にひきつづき素敵な会場を提供してくださったIsland and officeのみなさんに、この場を借りて感謝申し上げます。



多久和 理実 講師、科学史、利他プロジェクトリーダー

未来の人類研究センターの一員に加わって2年が経ちました。この2年間、将来歴史を構成するような記録を未来に残す活動の利他性について考えてきました。その中で、利他が生じそうな場において「未来をコントロールしようとする欲望」が想像していた以上に強いことに気付きました。「先回りして目標を定めておかないと不安になる」とも言えるかもしれません。そのような欲望や不安を手放して、利他学会議においても、思いがけず発生する対話やその空間を楽しみたいと思います。



ヒュー・デフェランティ 教授、音楽学、日本音楽史

... writes about music, primarily as manifested in "Japan", past and present, and among the "Japanese" historical diaspora in Australia. At the FHRC this year he has addressed music as a medium for connection and disconnection, communality and solitude. His work with Kyushu biwa singers, investigation of music among interwar Hanshin region ethnic minorities, and group-based research on music-making of diverse minorities in Tokyo as well as prewar emigrants from Japan all point toward the fundamentally "preservational" functions of music as a tool for social cohesion and conviviality, manifesting *rita* under particular conditions. Conversely he recognises "anti-rita" potentiality in essentialist claims about folk or traditional music and ethnic distinctiveness, which often underlie deployment of music for excluding and oppressing those regarded as ethnically or culturally "Other".



河村 彩 准教授、ロシア文化、近現代美術、表象文化論

私は美術やデザインを専門に研究していますが、これらは利他と深いつながりがあるとつくづく感じます。デザインは使う人や制作物を取り巻く環境を第一に考えて行われる行為です。一方芸術制作は、作家の自己表現という利己的行為に見えますが、芸術作品は見る人に心地良さを与え、ときには人生を変えてしまうような強い影響を及ぼします。つまりデザインにもそれぞれ異なった利他が存在します。そして両者に共通するのは、必ず受け取る他者がいること、そして物によって利他が媒介されるということです。利他学会議ではみなさんと一緒に身の回りにある多様な利他を具体的に考えてみたいのです。



山本 貴光 教授、学術史・ゲーム学、水プロジェクトリーダー

いまさらながら人生ではじめて水や雲について真剣に考えているかもしれません。というのは、未来の人類研究センターでメンバーのみなさんと「水プロジェクト」に取り組んでいるところなのです。利他という観点から水について考える——この課題をもう一ひねりして、「もし人間が雲を操作できる技術を手に入れたら、生活や社会や自然にどんな変化が起きるだろう」という問いを巡ってあてもないこうでもない議論しています。どこか捉えどころのない雲と人間や社会の関係をよく眺めるためには、諸学術の知見を集めて活用する必要があります。利他学会議では、そんな試行錯誤の一端をお目にかけます。みなさんとも一緒に分らない楽しさを楽しんでいただけたら幸いです。



川名 晋史 教授、国際政治学、安全保障論

専門分野の特性上、「利他」という概念には慎重な態度をとっています。むしろ利己的な個人からなる集団がいかにして他者や他の集団の利益に関心をもつことができるのか、ということのほうに関心があります。その意味では、私は利他ではなく、利民（りたみ）のほうに関心があるでしょう。もちろんこれは造語で、言葉遊びですが、「りた」と「りたみ」、「み」が加わることで、利他の概念はどのように変化するでしょうか。利民のほうは、自らを含めた市民(civil)全体の利益を考えるということですから、やはり狭義の利他とは意味するものが違うそうです。このような逡巡を覚えつつ、メタファーとしての水や雲の問題を考えてみたいと思います。



高橋 将記 准教授、時間栄養学、個別化栄養学

未来の人類研究センターにて、水プロジェクトに参画しています。「水」は、私の専門である栄養学とも深く関係しておりますが、センターでは普段とは異なる観点から「水」について考えています。例えば、私たちが空を見上げた時に目にする「雲」に着目し、雲と健康・ウェルビーイングとの関係、また雨の降ってきた場所に存在する食物や植物に対する影響など多面的な観点から人文・社会科学系の研究者と日々議論しています。利他学会議では、これまでの水プロジェクトで取り組んできたことの概要を紹介しつつ、異なる専門分野での取り組みの楽しさや難しさなどを参加者の皆さんと共有できればと思います。



Recent news

センターからの近況とお知らせ

2023.04-2024.03

1 サベル センターのメンバーによる利他本

〈新刊〉

『RITA MAGAZINE——テクノロジーに利他はあるのか?』(ミシマ社)

未来の人類研究センター編 2024年2月16日発売、2,460円



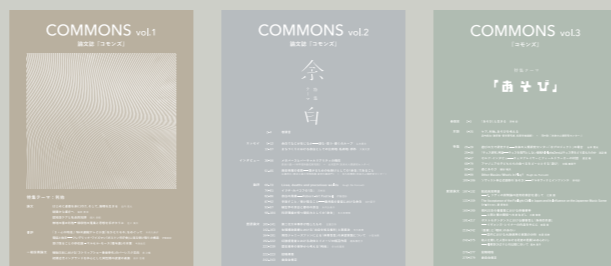
「漏れる」工学」「野生の思考」とテクノロジー」「共感」を前提とせずに「共にいる」をテーマに、センターの最初の2年の思考の軌跡をぎゅっと凝縮しています。

〈既刊本〉



2 サベル オンラインジャーナル『コモズ』

未来の人類研究センターが発行する査読付きオンラインジャーナル。第1号の特集は「利他」、第2号の特集は「余白」、そして第3号の特集は「遊び」。第3号には河村彩さんと近内悠太さんの対談、山本貴光さんによるエッセイなどが収録されています。



3 サベル 利他の本棚

河村彩さんが翻訳したボリス・グロイス『ケアの哲学』(人文書院)関連本や、デフェランティ・ヒューさん編の*Unslient Strangers: Music, Minorities, Coexistence, Japan* (National University of Singapore Press)など、センターのメンバーが集めた利他に関する書籍を、紹介テキストとともにセンターのサイトにてリストアップしています。

『利他の本棚』を含む Reportページ

▽



寄附のお願い

「利他プロジェクト」に対するご支援のお願い

https://www.fhrc.ila.titech.ac.jp/for_companies/

未来の人類研究センターでは、ひきつづき「利他」をテーマにかかげ、理工系の最先端の研究と歩調を合わせながら、数十年、数百年先の人類を見据えた人類のあり方を模索していきます。私たちの「利他プロジェクト」に共感してくださるみなさまの、あたたかい寄附をお待ちしております。インターネット基金もご利用可能です。詳細は未来の人類センターのホームページをご覧ください。

